

具体的に説明しますと、例えば、4月2日午後8時福島市（東経 $140^{\circ} 29'$ ）で星を観測する場合、

ア 早見盤の下盤の月日の目盛を見て、4月2日（1と3の間）のところに上盤の時刻20時の目盛を合わせる。

イ 経度修正目盛を見て、東経 135° の目盛を移動させる。

ウ 早見盤を実際の星空の方位、角度に合わせて、頭上にかざす。

よく知っている星座の位置、傾き、広がりと関係づけると星はさがしやすい。

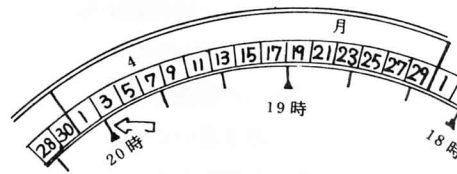
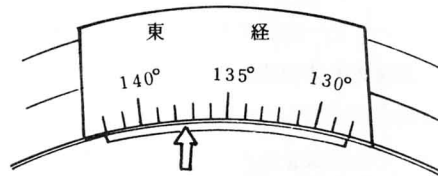


図-79 月日と時刻の目盛を合わせる



135°の位置を観測地点の経度まで移動する。

図-80 経度の修正

(3) 使用上の留意点

ア 早見盤は特定の緯度に基づいたものですから、緯度が大きく違う地点で

は、星の高度に違いが生ずるが、福島県内では、修正の必要はありません。

イ 早見盤の地平線は、天頂から 90° の方向にとっています。実際には地上に山や建物などの障害物があるので、地平線近くの星は見られないことを注意する必要があります。

ウ 早見盤の星座はたいへん小さく、その上ゆがんでいるものもあります。このことも注意して見る必要があります。

エ 早見盤を暗いところで見るときは、赤いセロハン紙をかぶせた懐中電燈を用意すると便利です。